

物群の造営される時期（II-A・B期）は十一坪のD期とほぼ同じと考えられている。その造営に際して所用瓦として多用された6308I-6682Bのセットは、前述したように、平城宮での所用例はなく、京内では左京二条二坊五坪、二条二坊十三坪、三条二坊一・二・七・八坪ほか数カ所の調査で確認されている。しかし、いずれの場合も少量であり、左京二条二坊十一・十二坪での状況はきわめて特徴的というべきである。かねてより、平城京内でまとまった量の瓦を出土する地域での軒瓦の様相には、①各時期にわたって平城宮所用瓦の同范品が使用され、平城宮と異なる瓦がほとんど出土しない地域と、②平城宮で未出か余り出土しない軒瓦が主体を占める地域との二つの類型があるとされている。しかし左京二条二坊十二坪の報告書で指摘されているように、6308I、6682Bの二者は、平城宮内ではきわめてまれとはい、他の京独自の軒瓦にくらべると、「平城宮式」の範疇で理解され得べき瓦当文様を備えている。したがって、このような様相に対しては、あらたに第三の類型あるいは第一類型の亞式としての類型を設定して考える必要があろう。いずれにせよ、十一・十二坪は瓦の様相からみると揃って「宮ならぬ宮的な」性格がうかがえる。敷地がより広かつたとすると、東辺の東二坊坊間東小路をはさんで東側の左京二条二坊十三・十四坪が対象となるが、その両坪で実施された発掘調査では、瓦の様相や遺構の変遷の点で十一・十二坪と共通する要素は乏しい。⁵⁾

以上のことから、左京二条二坊十一坪は、とくに建物配置の充実するD-1・2期は、南接する十二坪と、（両

坪の坪境には、平城京建設に際して、条坊道路に沿わせて流路を直線状に改修したと思われる菰川が流れしており、地形的には分断されているが、いわば二卵性双生児のようなありかたを示しており、しかも独自性を示しながらも宮的、公的な色彩を色濃くもっているといえよう。そこでは相撲所の所管する相撲節会の儀式の執行などにも、南接する十二坪にあった施設とともに深い関わりをもつたことが推測される。

註

- 1) 奈良市教育委員会「左京二条二坊十一・十四坪境小路の調査 第151次」『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和63年度』1989.3
- 2) 奈良市教育委員会『平城京左京二条二坊十二坪 奈良市水道局建設地発掘調査概要報告』1984.3
奈良市教育委員会『平城京左京二条二坊十二坪発掘調査の概要』1997.2 (以下、左京二条二坊十二坪の発掘調査の成果に関しては上記二報告書による。)
- 3) 三好美穂「出土遺物からみた遺跡の性格—平城京左京二条二坊十二坪出土の土器を中心として—」『奈良市埋蔵文化財センター紀要 1989』1990.3
- 4) 山岸常人「都城の生活—宅地と住宅」『季刊考古学 第22号』1988.2
- 5) 奈文研『平城京左京二条二坊十三坪の調査』1984.3
奈文研『左京二条二坊十四坪の調査 第189次』『昭和62年平城概報』1988.6

(井上和人／考古第3)

平 城 専 こらむ 欄 ②

◆30周年を迎えた平城サッカーチーム
行つきましたよ、みなさん！8月13日の日本対ブラジル戦。裏技つかつて、ちゃんとSS席のチケット手にいれたまではよかったです（8000円なぜ！）、なんと最前列の席。これがみにくいのなんの、目の前に手すりがドバーンとあって、まともに拝めたのは、サイドバックのロベルト・カルロスとカーフだけ。それにしても、日本の出

来は最悪というか、悲惨というか。ワールドカップへの道は、険しいの一言であります。

さてさて、昭和42年（1967）に発足した平城サッカーチームは、昨年度でめでたく30周年をむかえ、執行部一新。8年間部長をつとめたTさんのあとをうけ、はずかしながら、私が新部長に選出されました。いちおう固辞したんだけどな。おっかしいんだよなあ、グラ

ウンドで口うるさいから、人望なかつたはずなんだけど…。で、何をやつたかというと、ミニサッカーのゴールを買ったのです。紅白マッチにててくる人数が、総勢10人未満の場合にやるミニサッカー専用のゴールです。ところが、もう文句いってるやつがいる。「ゴールが小さすぎる！」だって。

あたりまえだろ、ミニサッカーのゴールなんだから。（A）